

術前検査等での肝炎ウイルス検査実施状況調査の結果について

I 調査概要

- 1 調査の対象 神奈川県内の病院 335機関
- 2 調査の方法 県電子申請システムによる多項目選択式

※ 依頼文を郵送し、神奈川県電子申請システムから回答いただく方式とした。

- 3 調査時期 令和5年3月13日（月）～3月31日（金）

- 4 依頼文郵送数・回答数・回答率

依頼文郵送数	回答数	回答率
335	115	34.3%

II 結果概要（集計結果は別紙のとおり）

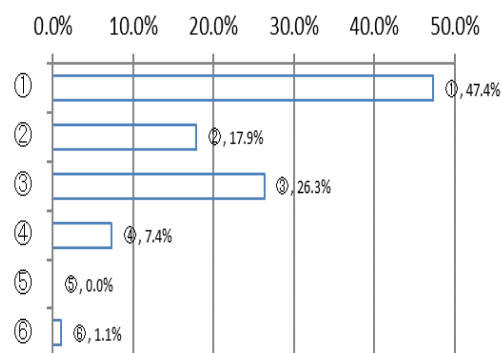
- 1 肝炎ウイルス検査の実施状況と受診勧奨（Q2-1・2）

○ 術前検査等でB型・C型肝炎ウイルス検査を行っているとは回答のあった79病院に、陽性であった患者への対応状況を聞いたところ（複数回答可：回答数95）、

- ・ 多い方から 「自院消化器内科へ紹介し受診勧奨」 47.4%、
「医療機関として方針は立てず主治医に一任」 26.3%、
「他院へ紹介し受診勧奨」 17.9%、
「結果伝達は行うが特に受診勧奨はしていない」 7.4%
「検査結果の伝達も受診勧奨もしていない」 0 であつた。

【陽性であった患者への対応状況】

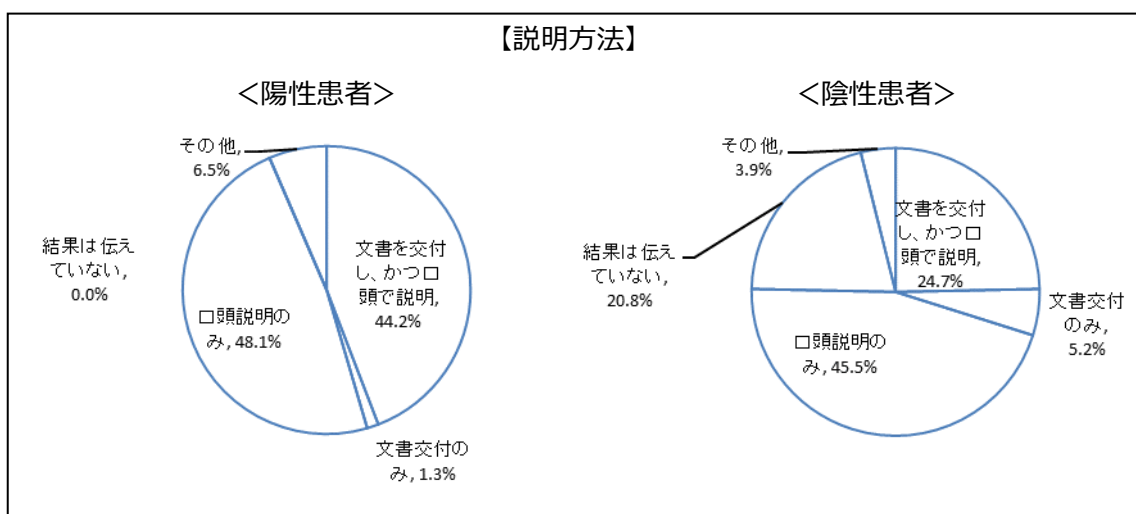
全体	95
① 自院消化器内科へ紹介し、受診勧奨をしている	45
② 肝臓専門医がいる他院へ紹介し、受診勧奨をしている	17
③ 医療機関として方針は立てず、主治医に一任している	25
④ 検査結果の伝達は行うが、特に受診勧奨はしていない	7
⑤ 検査結果の伝達も受診勧奨もしていない	0
⑥ 無回答	1



（回答病院数n=79、回答数n=95）

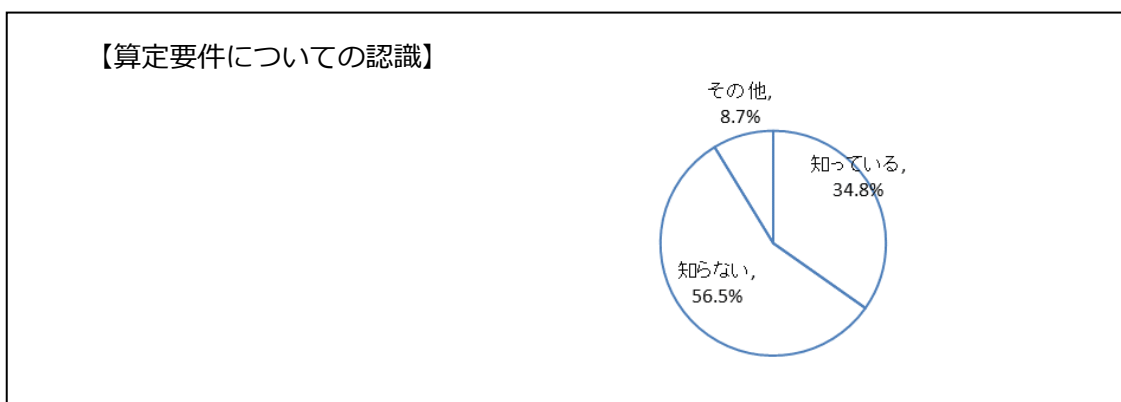
2 肝炎ウイルス検査の実施状況と受診勧奨（Q3-1・2・3）

- 肝炎ウイルス検査結果を患者に説明していると回答のあった77病院（回答115病院中67.0%）に、「陽性」「陰性」患者別に説明方法を聞いたところ、
 - ・ 陽性・陰性患者ともに「口頭説明のみ」が最も多く、次いで「文書を交付し、かつ口頭で説明」であった。
 - ・ 「文書を交付し、かつ口頭で説明」は陽性患者で44.2%であるのに対し、陰性患者では24.7%であった。
 - ・ 「結果は伝えていない」は陽性患者で0、陰性患者で20.8%であった。



3 手術前医学管理料、短期滞在手術等基本料の算定要件（Q4）

- 手術前医学管理料、短期滞在手術等基本料に包括されている肝炎ウイルス検査を行った場合は、結果が陰性であった場合を含め、適切な説明を行い、文書により提供する必要があることを認識しているかを聞いたところ（回答115病院）
 - ・ 「知っている」34.8%、「知らない」56.5%であった。



4 検査結果の伝達、受診勧奨を行う上で課題等（自由記載）（Q5）

- 別紙集計結果のとおり